

Hiroaki Masuda 増田 宏昭先生 公開講座

2019年

7月11日(木)

12:40~15:40

川越キャンパス

スタジオB

「指揮者によるオペラ研究」

増田 宏昭先生 略歴

神奈川県立湘南高等学校卒業後、東京芸術大学音楽学部ピアノ専攻へ進み故水谷達夫教授に師事。在学中同大学オーケストラとのソリストに選ばれその折りの指揮者故遠藤雅古教授に認められ同大学指揮科のピアニスト兼助手として勤務し、その後同大学大学院指揮科へ進み指揮法をカール・アウグスト・ビュンテ客員名誉教授に師事。その間指揮者として東京バロックアンサンブル、東京ユースシンフォニーオーケストラ、群馬交響楽団、東京アカデミー交響楽団等を指揮、又二期会オペラ振興会副指揮者、二期会合唱団指揮者として多くの経験をつむ。

1983年文化庁海外派遣員としてドイツに渡りバイエルン国立歌劇場にて故ヴォルフガング・サヴァリッシュ氏、故ジュゼッペ・パタネー氏、故リヒャルト・トリムボルン氏の下でオペラの研鑽を積む。

1985年コブレンツ市立歌劇場のバレエピアニストとして契約、バレエ曲「ロメオとジュリエット」(プロコフィエフ作曲)、「魔笛」、「蝙蝠」を指揮し1987年より同歌劇場の主席指揮者として数多くの作品を手掛ける。

1993年ザールランド国立歌劇場にて「ラ・ボエーム」、「アイダ」を指揮し、同歌劇場の主席指揮者に就任。1998年には同歌劇場管弦楽団を率いて、ワーグナーの「さまよえるオランダ人」を日本で指揮し高い評価を得る。

2002年ノルトハウゼン歌劇場及びゾンダーズハウゼン LOH オーケストラの音楽総監督に就任、オペラの指揮、オーケストラ演奏会の指揮と多大な指揮活動をこなした。2004年の同オーケストラとの凱旋演奏会でのフィオレンツァ・コソットとの競演「アイダ」は特に注目を集め、また同演奏会の「マーラーの交響曲第5番」はライブ録音のCD 発売にもなりその演奏はドイツ内でも大変高い評を得ている。又客演指揮者として特にスイス・バーゼル歌劇場での「オテロ」の客演は高い評価を得た。

彼の指揮活動はドイツ、イタリア、中国、台湾及び日本でも注目される。イタリアではミラノ・クラシカ、バーリ市立管弦楽団、中国では北京、上海、青島、天津、合肥各地の市立交響楽団、台湾では台湾国立管弦楽団、台北交響楽団、など数多くのオーケストラと競演、日本では二期会、新国立劇場を始め、多数のオペラ団体と競演している。又指揮活動の傍らドイツ「マックス・ブルッフ協会」の主席として尽力を尽くし、彼のピアノ伴奏による初の歌曲集のCDも発売され、同協会から名誉会員の称号を得る。

《備考》 ○ この公開講座は、ヒューマンコミュニケーションの1ポイントになります。

○ 公開講座を聴講するため、重複するレッスン及び授業については公欠扱いとなります。

※公欠対象：大学生→3・4時限目 大学生(PACS)→全日休講 短大生→10:50以降の授業及びレッスン

○ 公開講座中での入退場は、原則としてできません。(遅刻厳禁)

令和元年6月25日

東邦音楽大学・東邦音楽短期大学 教務学生担当